

学 園 報

No.49

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/info/midorino/>
 富山国際大学 URL <https://www.tuins.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会にながわ保育園 URL <http://www.tkfukushikai.or.jp/ninagawa/>
 富山短期大学 URL <https://www.toyama-c.ac.jp/> 社会福祉法人富山国際学園福祉会西田地方保育園 URL <https://www.tkfukushikai.or.jp/nishiden-hoiku/>
 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444
 TEL/076-436-5139
 FAX/076-436-5444

SDGs



理事長
 金岡 克己

SDGsという言葉がテレビやネットで目にする機会が増えています。日本経済団体連合会が、2017年に「Society 5.0 for SDGs」を掲げ、企業行動憲章を抜本的に改定したことが一つの契機となり、政府、地方自治体、一般企業などがSDGsに言及した方針、施策を発表するようになりました。この言葉を聞いて皆さんは何を思い浮かべますか。

SDGsはSustainable Development Goalsを略したものです。日本語では持続可能な開発目標と訳されています。2015年9月の国連総会で採択された、2030年までに世界が目指す共通の開発目標のことを指し、17の世界的目標、169の達成基準、232の指標から成り立っています。

目標の上位1番から6番までを並べますと、1. 貧困をなくそう (No Poverty)、2. 飢餓をゼロに (Zero Hunger)、3. 人々に保健と福祉を (Good Health and Well-Being)、4. 質の高い教育をみんなに (Quality Education)、5. ジェンダー平等を実現しよう (Gender Equality)、6. 安全な水とトイレを世界中に (Clean Water and Sanitation) となります。

世界全体の開発目標ですので、先進国だけではなく、低開発国、発展途上国を含めた考え方です。世界銀行によれば、1日当たり1.90ドル以下で暮らす絶対的貧困層が、新型コロナによる経済減速もあり、世界人口の9%に達するとされています。日本にしていると意識しませんが、今もって人類最大の課題は、貧困や飢餓の撲滅です。

17の目標を素直に眺めると、日本のような先進国では、SDGsの目標の多くが既に達成されていることが分かります。

繰り返しますと、世界全体の喫緊の課題は、貧困と飢餓の撲滅、保健や福祉、教育の普及、女性の地位

向上、そして、衛生環境の整備などです。一方、先進国におけるSDGsの議論は、やや本質から離れているといえます。17という広範な目標が定められているためか、一部のみを強調し、我田引水的に使われているケースが目立ちます。

例えば、日本や先進国においては、地球環境問題がSDGsの最大の課題と報道されている節があります。5番目のジェンダー平等も、本来、低開発国等における女性や子供の地位向上を目指すものですが、LGBTと絡めて議論されているようです。

このように都合よく参照されるSDGsですが、必ずしも世界に浸透している訳ではありません。SDGsの最大の貢献は何かと問われれば、持続可能性 (sustainability) に対する危機意識を高めたことと答えたいと思います。

各種統計で人口減少と少子化が明らかにもかかわらず、高度経済成長や人口増加時代の理念、行動様式を捨て切れない人々が多いようです。SDGsという用語の浸透は、そうした風潮に歯止めをかけ、冷静に将来を見つめる必要性を語りかけているように感じます。

小中学校の統廃合や県立高校の再編が進み、地域の教育機関が失われることの重大さをようやく人々が理解するようになりました。富山という地域に生まれた富山国際学園は、当然ながら、その持続可能性を豊かなものにしていかなければなりません。学園の持続可能性を担保するために各人に求められることは何か。私たちは、日々、この問いかけに答えていかなければならないでしょう。

CONTENTS

- | | |
|--|---|
| □SDGs 理事長 金岡 克己 …………… 1 | □特集2 東京2020パラリンピック車いすバスケットボール競技で岩井孝義選手が銀メダルを獲得 …… 4～5 |
| □特集1 学校法人富山国際学園 名誉理事長 金岡祐一先生がご逝去されました …… 2～3 | □令和3年度部門別学生・生徒・園児数等 …………… 5 |
| 「祐辞苑」～金岡祐一先生に学んで～ …… 3 | □令和2年度決算及び財務の状況 …………… 6～7 |
| 名誉理事長 金岡祐一先生との思い出 …… 3 | □学園NEWS …………… 8 |

学校法人富山国際学園

名誉理事長 金岡祐一先生がご逝去されました

学校法人富山国際学園名誉理事長 金岡祐一先生には、令和3年5月24日、享年93歳にてご逝去されました。先生には、長年にわたり理事長として、学園の発展に多大なご貢献をいただき、また「福沢諭吉の烈々たる自立精神」「国公立優先気風の富山県のと真ん中に、アテネの神殿のごとき私学の殿堂創立を」との熱い思いをもって、富山県の私学教育の振興にご尽力されました。

ここに先生のご功績を偲び、心からご冥福をお祈り申し上げます。

【略 歴】

かな おか ゆう いち
金 岡 祐 一

昭和3年2月25日生

(令和3年5月24日死去、享年93歳)

東京大学医学部薬学科卒業 (昭和25年3月)

東京大学大学院後期修了 (昭和30年3月)

<職 歴>

北海道大学医学部製薬化学科教授

(昭和41年4月～平成3年3月)

北海道大学名誉教授 (平成3年4月)

富山女子短期大学教授、教務部長

(平成3年4月～平成6年2月)

日本学術会議会員 (平成3年7月～平成12年7月)

(社)日本薬学会会頭 (平成5年4月～平成7年3月)

学校法人富山国際学園理事長

(平成5年9月8日～平成29年5月)

富山短期大学学長

(平成5年11月19日～平成24年3月)

社会福祉法人富山国際学園福祉会理事長

(平成16年6月～平成29年5月)

富山短期大学名誉学長 (平成24年5月)

富山国際学園名誉理事長 (平成30年4月)



<主な受賞>

(社)日本薬学会学会賞 (昭和55年4月)

世界薬学会議・千年紀薬学者賞 (平成12年4月)

瑞宝中綬章 (平成28年春)

正四位叙位 (令和3年7月)

「祐辞苑」

～金岡祐一先生に学んで～

富山短期大学 学長 宮田 伸朗

平成3年、金岡先生を食物栄養学科教授・教務部長にお迎えしてからご退任まで26年、今も心に残るお言葉で勝手に綴った私家版「祐辞苑」。その一端を紹介します。

◇仕事への取り組み姿勢(弱音は禁物)

「課題はたくさんあった方が良い」

▶うまくいかない課題があっても、一方で順調に進む課題があれば、気持ちが楽である。

「登山では苦しい時ほど高度を稼いでいる」

▶仕事で壁にぶち当たって苦しんでいる時こそ、自分に力がついていく時である。

◇組織運営を巡って(スポーツに例えれば)

「改革にはサツツ(角度とタイミング)が大事」

▶北大時代の思い出は、札幌五輪大倉山ジャンプ競技場での日本選手応援。テーマソング「雪と虹のバラード」に表情も緩みます。

「追い越されそうになっても絶対に譲らない」

▶後ろから来て追い越されそうになっても、絶対に先頭をキープせよ！

「野球で言えば5点差で負けていて9回裏2アウト」

▶満塁ホームランを打っても逆転できないほど厳しい状態。野球の例えは相手によく理解してもらえる。

◇学園の再興・私学の矜持(不屈の精神と壮大な目標)

「短大の発展型・子ども育成学部は学園の切り札」

▶短大幼児教育学科と福祉学科を土台に国際大学の窮状打開、学園再興にかける期待と確信。

「富山教育界に私学の柱石を」

▶福沢諭吉「独立自尊、烈々たる私学の精神」に共鳴。官学優先の富山の地にパルテノン神殿のような私学の烈々たる柱石を打ち立てよう！

◇番外編▶ユーモア「自分の家(旧金岡邸=県民会館分館)に入るのに入館料が必要?」▶苦情申出の保護者にも超低姿勢「実るほど頭を垂れる稲穂かな」▶福祉学科 GP 受審に熱血指導▶出張先で夜の銀座にお供▶学部設置審査中断への慰労▶民営化保育所引受審査リハーサルに真剣勝負など多くの場面でお供し、具申もさせて頂きました。心から感謝申し上げます、ご冥福をお祈り致します。

名誉理事長 金岡祐一先生 との思い出

富山国際大学 名誉教授 尾畑 納子

金岡先生が富山女子短期大学(現富山短期大学)に着任されたのは、ちょうど今から30年前の平成3年4月のことです。「今度お見えになる金岡先生は薬学の権威で、すごい先生だよ。」と、そんな噂が学内に流れ、緊張と期待を胸にお迎えしたことを今でも鮮明に憶えています。先生は当時からとてもお忙しい方でしたが、私が休日に研究室に行って構内でばったりお会いすると「君も、来ているの?」と声を掛けてくださるなど、大研究者でありながらとても気さくな面をお持ちでした。また、外部での研究活動で学位取得の際には、本当に心から喜んでくださいました。

当時、短大はコミュニティカレッジとして地域に貢献するため、公開講座の開催、生活科学レポート「ライフアイ」の発刊など、情報提供に努めていました。着任早々、先生にご専門の「イオンチャンネルの科学」についてライフアイの中で研究紹介をしていただきましたが、私が進めていた高分子電解質の研究と少し近接しており、興味深く読ませていただき、心躍ったものです。

平成5年、有志の教員で新女性学研究会(今でいうジェンダー研究会)を作りたいと申し上げたところ、「女子短大だからね。」と、笑いながら活動資金をご提供し、応援してくださいました。

私が富山国際大学に赴任した頃のことですが、先生はお酒も嗜まれ、少し召し上がると「二酸化炭素と温暖化の関係についてどう考えるかねえ。」そんなお話を始められ、お互い酔いに乗じて時間の経つのも忘れ、学者談義に花が咲きましたこと、楽しい思い出の一つであり、先生の高い識見がうかがえます。

多岐にわたり、思い出は尽きませんが、「国と地域の繁栄を支えるのは教育」との信念と研究への情熱を持ちながら、私をはじめ多くの教職員や学生たちを温かくご指導くださった金岡祐一先生に心より感謝を申し上げます。 合掌

東京2020パラリンピック車いすバスケットボール競技で岩井孝義選手が銀メダルを獲得

富山国際大学附属高等学校

東京2020パラリンピックの車いすバスケットボール〈男子〉に出場した岩井孝義選手（富山国際大学附属高等学校 平成26年度卒業生）は、日本代表として過去最高となる銀メダル獲得に大きく貢献した。岩井選手は令和3年10月20日（水）、本校を訪問し、3年後のパリ大会に向けた抱負や今後の競技普及への思いなど、インタビューに答えた。

この日は、生徒会副会長の金多恵さん（21H）からの花束贈呈や、梅野同窓会長からの記念品贈呈などもあった。帰りは生徒達から大きな拍手で送られ、体育館入り口の木製スロープにサインする一幕もあった。

一銀メダル獲得、おめでとうございます！ 今大会では、1次リーグから決勝まで7試合に出場しましたが、大会を終えて今の心境は。

「メダルをとった実感は、まだ微妙です。たくさんの方が声をかけてくださることで、最近実感してきたところです。今は、3年後のパリ大会に向けて練習に取り組んでいます」

一決勝では、前回大会優勝のアメリカに60－64で競り負け残念でしたが、巧みなチェアワークで相手のチャンスを阻みました。決勝戦を振り返って。

「まず、世界最強のアメリカと戦えたことが光栄。コートでテンションが上がりました。試合は『ディフェンスで勝つ』ことを常に意識していました。日本のプレーはスピードもシュート力もありました。今までで一番いい試合ができたと思います」

一大会が終わり富山に帰って、周りの反応は。

「周りの人からよく声をかけられます。テレビなど



で見てくれたことが分かってうれしいですね。この前はスーパーに行った時、『車いすバスケットボールの岩井選手ですよ』と声をかけられました。家族はおめでとうと言ってくれました。家族に、結果を残して恩返しできたらと考えていたので、銀メダルをとれて良かったです」

一今後の抱負は。

「3年後のパリ大会まで、一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。この先、代表メンバーの選考はさらに厳しくなるはずなので、選ばれるよう継続して練習をしていきます。来年4月までは土台作りをしたり、見直す時間を設けたりするつもりです」

一SNSで話題になるなど、車いすバスケットへの関心が高まり、かなり盛り上がっています。今後の普及に向

けた思いは。

「まだ障害者スポーツとして認識されていますが、僕は車いすバスケットボールを障害者スポーツとしてではなく、ひとつのスポーツとして見てほしいと思っています。見方を変えてもらえるよう何かしらのアクションをしていきたいです。この熱が冷めないように、トークショーなどのイベントに積極的に参加することで、応援し続けてもらえるように励みます」

—後輩の国際生にメッセージを。

「国際生の皆さん、応援ありがとうございました。車いすバスケットボールを通じて僕が皆さんに伝えたいのは、何に対しても感謝の気持ちを常に持つことです。僕の努力だけではここまで来られていません。周りの方々が支えてくれたおかげです。皆さんも、周りのさまざまな方々に支えてもらっていることに感謝を忘れず、常にあらゆることに感謝の気持ちを持って生活してほしいです」



令和3年度部門別学生・生徒・園児数等

令和3年5月1日現在（単位：人）

部門	学部・学科名等	収容定員(A)	1年	2年	3年	4年	合計(B)	定員充足率(B/A)	備考
大 学	現代社会学部	490	113	116	140	124	493	100.6%	
	子ども育成学部	360	104	90	103	97	394	109.4%	
	小 計	850	217	206	243	221	887	104.4%	
短 大	食物栄養学科	160	90	79			169	105.6%	
	幼児教育学科	160	84	94			178	111.3%	
	経営情報学科	220	109	123			232	105.5%	
	健康福祉学科	80	26	37			63	78.8%	
	専攻科食物栄養専攻	30	16	7			23	76.7%	
小 計	650	325	340			665	102.3%		
高 校	全日制普通科	765	284	225	248		757	99.0%	
幼稚園		110	3歳児 23	4歳児 27	5歳児 32		82	74.5%	
	総 計	2,375					2,391	100.7%	

令和2年度 決算及び財務の状況

決算及び財務の状況

令和2年度の事業報告及び決算は、去る5月25日開催の理事会・評議員会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

大学

大学は、現代社会学部・子ども育成学部の両学部とも入学定員を下回ることとなりましたが、大学全体では4年連続で収容定員を確保できました。その結果、当年度収支差額で90,113千円（R1 148,382千円）の黒字計上となりましたが、前年度より黒字額が減となりました。補助金は、国等の方針により度々要件が変更になることから、安定的に確保することが難しくなっています。従って、収入源として確実な学生数を安定的に確保することに努める必要があります。

短大

短大は、入学定員の見直しや学生募集活動に努めたことにより、2年連続で入学定員を確保したことなどにより、収容定員も確保することができました。この結果、当年度収支差額は、36,444千円（R1 21,927千円）と黒字となりましたが、少子化や全国的な4年制大学志向の高まりなどを考慮すると、今後さらに厳しさが増していくことが予想されます。

高校

高校は、近隣県立高校において2次募集が行われたことなどにより入学定員を下回ることとなりましたが、高校全体では前年度に引き続き収容定員を確保できました。当年度収支差額は、28,211千円（R1 55,767千円）となり、前年度より黒字額が減となりました。

幼稚園

幼稚園は、2号定員については、定員を満たしましたが、全体では定員を下回りました。当年度収支差額は、△9,926千円（R1 △13,614千円）と赤字となりました。今後は、多様な保育ニーズに応えることにより、安定的に園児数を確保することが必要です。

学園全体の決算及び財務状況

事業活動収支計算書（当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容と基本金組入後の均衡の状態を明らかにするもの）において、事業活動収入合計が2,840百万円（対前年度比72百万円減）、事業活動支出合計が2,618百万円（同71百万円増）、以上のことから、事業活動収支は222百万円（同45百万円増）の黒字となりました。

収入減の主な要因は、①寄付金の減、②私学退職金財団交付金の減などによるものです。

支出減の主な要因は、人件費及び教育研究経費等が前年度に比べ減となったことなどによるものです。

資金収支計算書

令和2年4月1日から
令和3年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	2年度予算	2年度決算①	前年度決算②	差異①-②
収入の部				
学生生徒等納付金収入	2,102,377	2,043,820	2,049,244	△ 5,424
手数料収入	37,554	38,873	40,050	△ 1,177
寄付金収入	2,503	4,627	46,769	△ 42,142
補助金収入	660,871	629,567	624,831	4,736
資産売却収入	1	0	0	0
付随事業・収益事業収入	30,674	18,822	27,800	△ 8,978
受取利息・配当金収入	5,220	1,754	2,412	△ 658
雑収入	75,833	82,433	89,989	△ 7,556
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	449,412	459,755	458,420	1,335
その他の収入	96,374	110,055	272,667	△ 162,612
資金収入調整勘定	△ 586,420	△ 564,954	△ 579,709	14,755
前年度繰越支払資金	844,356	844,356	874,683	△ 30,327
収入の部合計	3,718,755	3,669,108	3,907,156	△ 238,048
支出の部				
人件費支出	1,679,454	1,645,743	1,703,869	△ 58,126
教育研究経費支出	622,510	509,839	507,728	2,111
管理経費支出	157,305	126,773	127,869	△ 1,096
借入金等利息支出	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0
施設関係支出	66,531	51,306	20,808	30,498
設備関係支出	65,268	65,147	35,421	29,726
資産運用支出	4,512	317,800	629,232	△ 311,432
その他の支出	130,500	119,310	154,374	△ 35,064
(予備費)	(0)			
資金支出調整勘定	△ 1,177,000	△ 106,857	△ 116,501	9,644
翌年度繰越支払資金	1,094,175	940,047	844,355	95,692
支出の部合計	3,718,755	3,669,108	3,907,155	△ 238,047

事業活動収支計算書

令和2年4月1日から
令和3年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	2年度予算	2年度決算①	前年度決算②	差異①-②
教育活動収入の部				
学生生徒等納付金	2,102,377	2,043,820	2,049,244	△ 5,424
手数料	37,554	38,873	40,049	△ 1,176
寄付金	4,506	5,209	47,042	△ 41,833
經常費等補助金	655,749	619,693	620,832	△ 1,139
付随事業収入	30,674	18,822	27,800	△ 8,978
雑収入	75,833	82,433	89,979	△ 20,252
教育活動収入合計(1)	2,906,693	2,821,144	2,899,946	△ 78,802
教育活動支出の部				
人件費	1,683,454	1,654,196	1,716,076	△ 61,880
教育研究経費	945,510	831,405	836,508	△ 5,103
管理経費	160,304	129,570	130,559	△ 989
徴収不能額等	1	0	0	0
教育活動支出合計(2)	2,789,269	2,615,171	2,683,143	△ 67,972
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	117,424	205,973	216,803	△ 10,830
教育活動外収入の部				
受取利息・配当金	5,220	1,754	2,412	△ 658
その他の教育活動外収入	1	0	0	0
教育活動外収入合計(4)	5,221	1,754	2,412	△ 658
教育活動外支出の部				
借入金等利息	0	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	0
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	5,221	1,754	2,412	△ 658
經常収支差額(7)=(3)+(6)	122,645	207,727	219,215	△ 11,488
特別収入の部				
資産売却差額	1	0	0	0
その他の特別収入	8,625	17,184	9,737	7,447
特別収入合計(8)	8,626	17,184	9,737	7,447
特別支出の部				
資産処分差額	8,600	2,699	6,135	△ 3,436
その他の特別損失	1	0	1	△ 1
特別支出合計(9)	8,601	2,699	6,136	△ 3,437
特別収支差額(10)=(8)-(9)	25	14,485	3,601	10,884
【予備費】(11)	(0)			
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	107,170	222,212	222,816	△ 604
基本金組入額合計(13)	△ 74,709	△ 113,750	△ 46,217	△ 67,533
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	32,461	108,462	176,599	△ 68,137
前年度繰越収支差額(15)	△ 2,492,277	△ 2,492,278	△ 2,668,877	176,599
基本金取崩額(16)	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	△ 2,459,816	△ 2,383,816	△ 2,492,278	108,462
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,920,540	2,840,082	2,912,095	△ 72,013
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,813,370	2,617,870	2,689,279	△ 71,409

令和2年度学校法人富山国際学園財務分析について

令和2年度決算の財務分析によると、法人全体及び短大・幼稚園を除く各校では、経常費ベースでの収益性は前年度に引き続き、おおむね良好である。また、法人全体の安全性は今後さらに高める必要があるが、短期的な支払い能力(返済力)は特に問題なしと判断される。

事業活動収支差額比率(損益ベースでの収支状況)は学園全体では、0%以上であるが、幼稚園がマイナスとなっていることから、定員割れの状況を打開することが必要である。**人件費比率**(人件費の収入に対するバランス)では、高校・幼稚園が60%を超えており、対策が必要である。また、**教育研究費比率**(教育研究費の経常収入に占める割合)は目安とされる30%を大学・高校は下回っており、今後、収支の均衡を失しない限り、教育活動への更なる投資を目指す必要がある。

積立率(安定的に経営を行う上での保有資産の状況)は76.4%と100%以下であることから、長期的に必要な資金を確保できていないため、今後運用資産を増やし、安全性を高める必要がある。

流動比率(短期的な支払い能力)は170.1%と返済力に問題はない。

今後、本学園は教育活動の維持・向上及び短大などの施設老朽化に伴う修繕費の増加が見込まれることを考慮すると、更に収益性を高め、運用資産を増加させて安全性を高めていかなければならない。

【参考】財務指標の意味

(日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターより)

- ①事業活動収支差額比率【基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入】**
事業活動収入に対する基本金組入前の当期収支差額が占める割合で、この比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものである。
- ②人件費比率【人件費/経常収入】**
人件費の経常収入に占める割合を示す。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化につながる要因ともなる。
- ③教育研究費比率【教育研究経費/経常収入】**
教育研究経費の経常収入に占める割合を示す。教育研究経費は、教育活動に維持・充実のため不可欠なものであり、この比率も収支均衡を失しない範囲内で高くなることが望ましい。
- ④積立率【運用資産/要積立額】**
運用資産=現金預金+特定資産+有価証券
要積立額=減価償却累計額+退職給付引当金+2号基本金+3号基本金
学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。長期的に必要な資金需要(保有すべき要積立額)に対し、実際にどの程度運用資産として保持しているかを把握する指標となる。
- ⑤流動比率【流動資産/流動負債】**
流動負債に対する流動資産の割合であり、1年以内に返済義務のある借入金等の流動負債に対して、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払能力を判断する重要な指標である。一般的には200%以上であれば優良とみなされる。

【主な財務指標】

(単位:千円)

	①	②	③	④	⑤			
法人全体	2,840,082	2,617,870	222,212	7.8%	58.6%	29.5%	76.4%	170.1%
大学	1,110,630	966,506	144,124	13.0%	53.9%	28.1%		
短大	952,611	879,102	73,509	7.7%	56.8%	30.5%		
高校	698,981	647,110	51,871	7.4%	63.9%	27.9%		
幼稚園	76,367	87,293	-10,926	-14.3%	63.8%	49.4%		

活動区分資金収支計算書

令和2年4月1日から
令和3年3月31日まで

(単位:千円)

貸借対照表

令和3年3月31日

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	12,594,092	12,500,691	93,401
有形固定資産	7,776,113	7,978,970	△202,857
特定資産	4,816,654	4,520,396	296,258
その他の固定資産	1,325	1,325	0
流動資産	1,068,999	954,899	114,100
資産の部合計	13,663,091	13,455,590	207,501
負債の部			
固定負債	568,099	571,855	△3,756
流動負債	628,283	639,238	△10,955
負債の部合計	1,196,382	1,211,093	△14,711
純資産の部			
基本金	14,850,525	14,736,774	113,751
第1号基本金	14,652,970	14,539,233	113,737
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	13,555	13,541	14
第4号基本金	184,000	184,000	0
繰越収支差額	△2,383,816	△2,492,277	108,461
純資産の部合計	12,466,709	12,244,497	222,212
負債及び純資産の部合計	13,663,091	13,455,590	207,501

科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	2,043,820	小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)①=(5)+(6)	390,034
手数料収入	38,873	借入金等収入	0
特別寄付金収入	4,627	退職給付引当特定資産取崩収入	21,542
一般寄付金収入	0	修学旅行費預り金受入収入	2,809
経常費等補助金収入	619,693	預り金受入収入	162
随時事業収入	18,822	小計	24,513
雑収入	82,433	受取利息・配当金収入	1,754
教育活動資金収入計(1)	2,808,268	過年度修正収入	0
人件費支出	1,645,743	その他の活動資金収入計(2)	26,267
教育研究経費支出	509,839	借入金等返済支出	0
管理経費支出	126,772	第3号基本金引当特定資産繰入支出	14
教育活動資金支出計(2)	2,282,354	退職給付引当特定資産繰入支出	17,786
差引(3)=(1)-(2)	525,914	学園施設等充実引当特定資産繰入支出	300,000
調整勘定等(4)	△29,301	修学旅行費預り資産繰入支出	2,809
教育活動資金収支差額(5)=(3)+(4)	496,613	小計	320,609
施設整備等活動資金収支		借入金等利息支出	0
施設整備等寄付金収入	0	その他の活動資金支出計(3)	320,609
施設整備補助金収入	9,874	差引(4)=(2)-(3)	△294,342
施設整備売却収入	0	調整勘定等(5)	0
施設整備等活動資金収入計(6)	9,874	その他の活動資金収支差額(6)=(4)+(5)	△294,342
施設関係支出	51,306	支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)①+⑧	95,692
設備関係支出	65,147	前年度繰越収支差額	844,355
施設整備等活動資金支出計(7)	116,453	翌年度繰越収支差額	940,047
差引(8)=(6)-(7)	△106,579		
調整勘定等(9)	0		
施設整備等活動資金収支差額(10)=(8)+(9)	△106,579		

部門別事業活動収支計算書

(単位:千円)

活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人	活動区分	科目	部門	総額	大学	短大	高校	幼稚園	法人
教育活動収支	学生生徒等納付金	2,043,820	917,594	738,224	386,982	1,020	0	0	経常収支差額	(7)=(3)+(6)	207,727	140,598	74,115	40,306	△10,926	△36,366	
	手数料	38,873	16,242	12,368	10,231	32	0	0	収入の部の活動	資産売却差額	0	0	0	0	0	0	
	寄付金	5,208	1,507	2,394	1,000	307	0	0	特別収入	その他の特別収入	17,184	4,459	1,154	11,571	0	0	
	経常費等補助金	619,693	133,806	130,210	285,582	70,096	0	0	支出の部の活動	特別収入合計(8)	17,184	4,459	1,154	11,571	0	0	
	随時事業収入	18,822	7,267	6,646	0	4,908	0	0	支戻の部の活動	資産処分差額	2,699	933	1,760	6	0	0	
	雑収入	94,728	29,526	61,430	3,615	4	153	0	特別収入合計(9)	その他の特別支出	0	0	0	0	0	0	
	教育活動収入合計(1)	2,821,144	1,105,942	951,272	687,410	76,367	153	0	特別収支差額	(10)=(8)-(9)	14,485	3,526	△606	11,585	0	0	
	人件費	1,654,196	595,791	540,143	438,964	48,693	30,605	0	基本金組入前当年度収支差額	(11)=(7)+(10)	222,212	144,124	73,509	51,871	△10,926	△36,366	
	教育研究経費	831,405	311,246	290,452	192,004	37,703	0	0	基本金組入額合計(12)	△113,750	△54,011	△37,065	△23,660	1,000	△14		
	管理経費	129,570	58,536	46,747	16,136	897	7,254	0	当年度収支差額(13)=(11)+(12)	108,462	90,113	36,444	28,211	△9,926	△36,380		
徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0	前年度繰越収支差額(14)	△2,492,278	0	0	0	0	0			
教育活動支出合計(2)	2,615,171	965,573	877,342	647,104	87,293	37,859	0	基本金取崩額(15)	0	0	0	0	0	0			
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	205,973	140,369	73,930	40,306	△10,926	△37,706	0	翌年度繰越収支差額(16)=(13)+(14)+(15)	△2,383,816	0	0	0	0	0			
教育活動外収支	受取利息・配当金	1,754	229	185	0	0	1,340	0	(参考)								
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	0	事業活動収入合計(1)+(4)+(6)	2,840,082	1,110,630	952,611	698,981	76,367	1,493		
	教育活動外収入合計(4)	1,754	229	185	0	0	1,340	0	事業活動支出合計(2)+(5)+(9)	2,617,870	966,506	879,102	647,110	87,293	37,859		
	借入金等利息	0	0	0	0	0	0	0	事業活動収支合計(1)-(2)+(4)-(5)	222,212	144,124	73,509	51,871	△10,926	△36,366		
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	0	基本金組入前当年度収支差額	222,212	144,124	73,509	51,871	△10,926	△36,366		

富山国際大学

学生運営による富山国際大学売店が本格オープン



学生生活の利便性の向上と学びの実践の場として、学生が運営する富山国際大学売店が令和3年9月30日（木）12時に本格オープンしました。当活動は、本学が注力しているスマートキャンパスの一環として実施しており、キャッシュレス決済にも対応した店舗となりました。売店設置に向けた取り組みは、現代社会学部の伊藤ゼミの学生5名が中心となり、1年以上前から準備をしてきました。今年5月には学生主導で「株式会社 TUINS」を設立し、支払いシステムや仕入、人材管理等の仕組みを整えてきました。7月末には2週間のプレオープンを実施し、夏休み中にその結果を踏まえた改善を行い、今回の本格オープンに至りました。今後は、売上・顧客分析、仕入の管理等の売店経営について実践を通して学んでいきます。学生目線のアイデアと行動力を活かし、持続的な売店運営を目指します。

富山短期大学

第1回呉羽キャンパス合同大学祭を終えて

富山短期大学大学祭としては58回目、富山国際大学仁友祭としては12回目の開催となった今年度は、初の合同開催となりました。これまでは、同一キャンパスでありながら、別々の運営でしたが、お互いの力を共有し、手を携えて運営することで、学校法人富山国際学園の高等教育機関としてよりスケールの大きな内容にしたいとの思いから、合同での開催となりました。コロナ禍ということで、オンラインでの開催にはなりましたが、リアルタイムの配信とオンデマンドの視聴と時代の流れに沿った形式で挑戦できたことは、学生だけでなく教職員にとっても非常に良い経験となりました。次年度からも合同で開催するにあたり、呉羽キャンパスの学生と教職員が一丸となり、学生の学びと個性、大学・短大の教育・研究・地域貢献の場として発信していきたいと思えます。



富山国際大学附属高等学校

第31回文化活動発表会開催



第31回文化活動発表会が令和3年10月22日（金）、「Step to the future ～いまこの時を未来の架け橋に～」をテーマにオンラインで開催しました。昨年に引き続き、基本的に文化部などが事前に作成した動画を、プロジェクター上映を通して各教室で視聴する形式で行いました。第1部では、各部が活動発表を行い、英語部の留学帰国者が、カナダでの体験を英語で発表しました。また、放送部はオリジナル脚本によるテレビドラマを放映しました。第2部では、長谷川優葵さん（36H）が「日本の子どもの健康状態～栄養学の視点から習慣的にできることは何か～」、松本錠さん（32H）が「北欧教育と幸福度の向上～幸せとは何か～」のテーマで、課題研究の発表を行いました。最後に東京パラリンピック車いすバスケットボール日本代表で銀メダルを獲得した岩井選手からのメッセージが流されました。

富山短期大学附属みどり野幼稚園

発見がいっぱい！園外保育

令和3年10月29日（金）古城公園と島尾海岸を目的地に年長児32名が園外保育へ行きました。園庭の木や葉、実などに興味を持った子どもたち。家庭などで見つけた木の葉や実から様々な木の名前を調べて伝え合っていました。「もっといろんな木や葉っぱを見つけよう！」と目的地を古城公園に決め、ルートを考えながら島尾海岸にも行くことになりました。古城公園では2グループに分かれて散策し、様々な木に触れて感触を楽しんだり、拾った葉や実を互いに見せ合い、調べていた木の名前を思い出したりしました。初めて発見した物は、「調べてみよう！」と子どもたちの探究が続いています。島尾海岸では目の前いっぱい海に目を輝かせ走り出す子どもたち。晴天の下、自然の多様性に触れて心躍る経験となりました。

